


HINOHARABITO

# ヒノハラビト

檜原村 地域おこし協力隊記念誌





ここは檜原、町より移住せし者共有りけり。  
深山に住みて、日々過ごしつつ、  
よろづのことを手伝ひけり。  
名をば、地域おこし協力隊となむ言ひける。

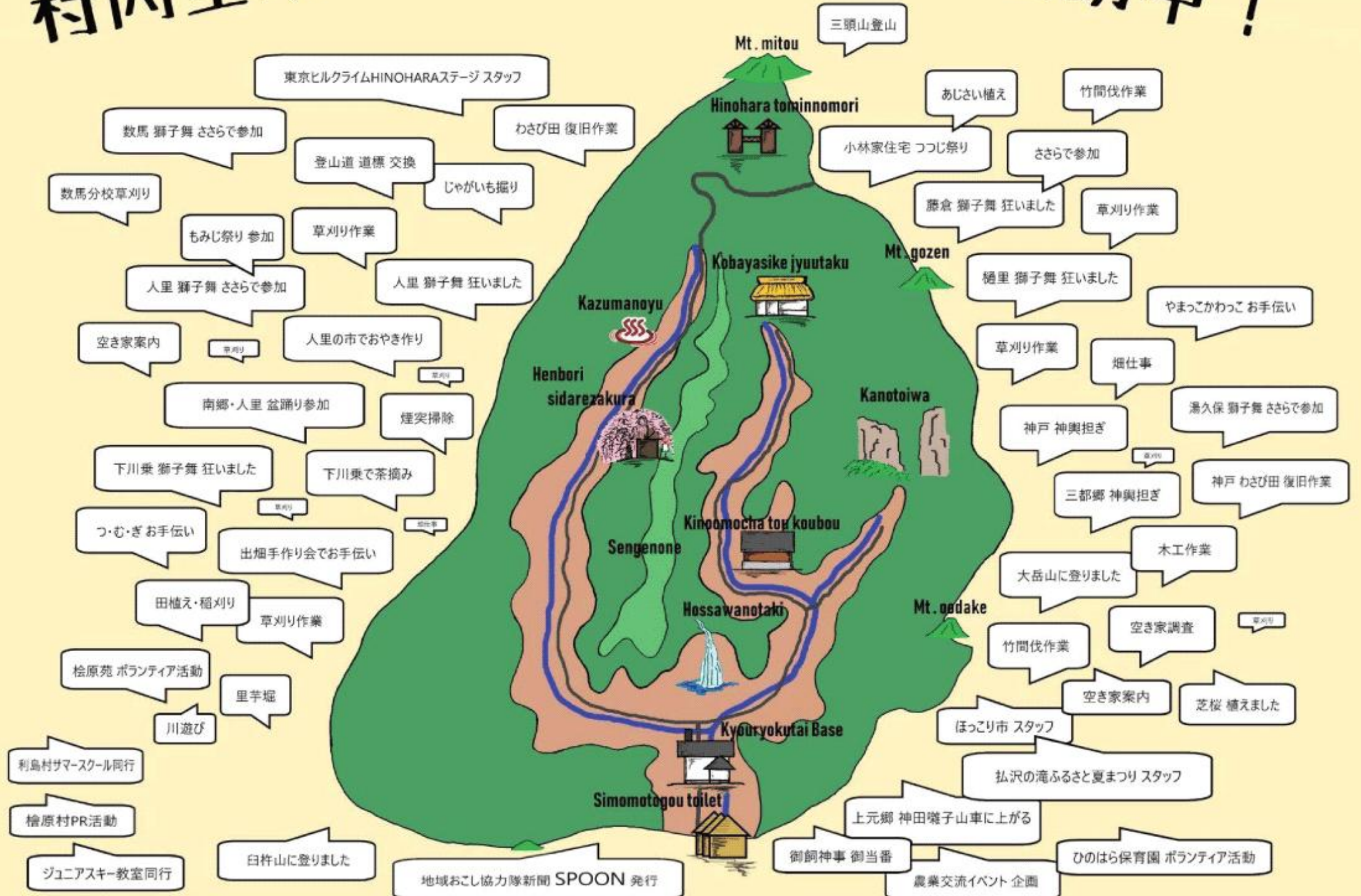
東京都で島嶼部を除く唯一の村、檜原村。山林、清流、溪谷…  
東京とは思えない雄大な自然環境を有している一方で、人口減  
少や高齢化など、地方と同様の課題を抱える檜原村が地域おこ  
し協力隊を受け入れるようになってから早や五年が経とうと  
しています。

先の見えぬ黎明期に、不撓不屈の精神によって未来を切り拓い  
てきた先輩と、その勇姿を道しるべに、自らの夢の実現に向け  
て勇猛果敢に挑戦する後輩たち。

そんな歴代の協力隊員が歩んできたこの五年間の軌跡を辿り  
ます。

# 村内全域で

# 活動中!



# 地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊とは、「都市から地方へ移住したい」という人を、地方自治体が期限（1年更新、最長3年間）付きで地域おこし協力隊として雇用し、協力隊員はその地域で地域活性化につながる活動（農林漁業、観光業、福祉、地域活動など）に従事しつつ、就職先を探したり、起業準備を行い、任期後も地域に残ることを目指す制度です。

都市と地方の格差を是正したい総務省、都市から移住者を呼びたい自治体、地方に移住したい人、その三者の要望を組み合わせて生まれた制度です。

平成21年度にスタートし、平成30年度は1000人以上の自治体で5000人以上の隊員が活躍し、任期終了後も6割ほどの隊員が活動地や近隣の市町村に定住しています。

隊員の活動は、農林水産業（現場の作業の手伝い、商品の開発、販売、営業）、観光（観光協会や道の駅で働く、イベントの企画運営）、福祉（高齢者の見守り、買い物や外出の手伝い）、教育（地元の子供の自然教育や食育などの支援）など多岐に渡り、様々な特技を持った人が活躍しているようです。

卒業後は隊員の5割程が活動地と同一自治体に、1割程が活動地の近隣自治体に定住し、そのうち4割程が就職、4割程が起業するという道を選んでいます。業種は農林水産業、製造業（特産品など）、小売業、飲食業、観光業、クリエイター、地域づくり支援、自治体職員、地方議員など

# 檜原村地域おこし協力隊について

檜原村では平成27年度に協力隊員の受け入れをスタートし、平成27年に2名（小西久司、杉本有香）、平成28年に1名（細貝和寛）、平成29年に2名（小川豪、松岡賢二）、平成30年に1名（佐藤瑞恵。現在は結婚、改姓し中村瑞恵）、令和元年に4名（高橋春香、土井卓哉、土井智子、大倉悠揮）と5年で10名の協力隊員を受け入れ、卒業した4名（小西久司、杉本有香、細貝和寛、中村瑞恵）全員が檜原村に定住しています。日本全国の協力隊員の卒業後の自治体への定着率が6割程である事を考えると、檜原村の100%という定着率はかなり高いです。それだけ檜原村が魅力ある地域だということなのでしょう。

檜原村の協力隊の任務は主に空き家・移住・定住対策（空き家の調査、移住希望者への紹介）、観光振興（イベント、出店の手伝い）、農業振興（畑仕事の手伝い）など、その他にも地域の皆様からの様々な依頼に対応しています。

また、協力隊の活動外でも自治会や消防団に加入したり、地域の伝統行事に参加させて頂いている隊員も多いようです。

檜原村協力隊員の卒業後の進路は、詳細は各隊員の紹介ページに譲るとして、村内外の事業所（複数の場合も）で働きたい、自分の興味、関心がある分野で起業する「複業」を行う事が多いようです。

## 村の「コミュニティ

## 存続に向け奮闘する人

### 第3期

小川 豪

（東京都出身）

都会と自然が共存するまち立川で育った私は、自身やご先祖様が生まれ育ったこの多摩地域の歴史や文化を調べることが大好きな子どもでした。しかし、昔の人々の暮らしを知るにつれ、他人とは必要以上に関わるまいとする都会での生活に疑問を抱くようになっていました。

檜原村との出会いは5歳のとき。村に嫁いだ親戚の家に遊びに行ったとき

でした。山奥のわずかな平地に立派な古民家がひっそりと建っている光景はまさに衝撃的でした。その約17年後、大学でエコツーリズムを学んでいたことがきっかけで村を再訪することに。そのときに知り合った協力隊1年目の

細貝隊員の活動に何度か付いて回るうちに、昔ながらの人間付き合いが残る村の魅力に憑りつかれ、自分も地域おこし協力隊としてこの檜原村で働きたいと思うようになっていました。

協力隊では観光振興担当として、村のエコツーリズム事業やイベント出店



3年目に上元郷囃子保存会会長に抜擢。消防団では操法士として村の操法大会に初出場し、初優勝を果たした(写真右)。闘う神事では御当番に3度名乗りを上げ、最後の最後に火打ちが成功(写真左)。



# 村の畑を

# 耕し遊休地を活かす人

第3期 松岡 賢二 (神奈川県出身)



私の地元は神奈川県横浜市、実家はサラリーマン家庭、大学は文系学部を卒業し、新卒で営業の仕事に就き、と移住や農業と縁のない人生を送っていました。が、都会の会社が合わず、田舎暮らしや農業に憧れ、紆余曲折を経て、檜原村へ移住しました。

主な活動は農家さんの畑仕事のお手伝いで、畑の草刈り、耕運、野菜の植え付け、収穫まで、色々な仕事を教えて頂きながらお手伝いさせて頂きました。また、協力隊の活動外では自治会や消防団、獅子舞等にも参加させて頂いております。

檜原村で感じたのは空き家と遊休農地の多さでした。そこで「東京里山シェアリング」という事業を始めました。元個人商店の空き家を活用してシェアハウス(居住)、ゲストハウス(宿泊)、シェア店舗・オフィス(起業)の機能を備えた施設(ひのはうす)と、近隣の遊休農地を活用したシェア農園(ひのふぁー

む)が主な事業です。観光客はシェア農園で遊び、ゲストハウスに宿泊できる。移住者はシェアハウスに住み、シェア農園、シェア店舗・オフィスで起業できるという仕組みです。今はシェアハウスで移住者2人と生活しながら、約50名の会員さんと活動しています。4月からは新しく2人の住人が入居する予定です。自然豊かな檜原村に住みたい、檜原村で働きたいという人が増えています。

毎週末には会員さんもやってきて、昼間は一緒に畑仕事をして、夜は住人さん、会員さん、みんなで鍋パーティーなどを行っています。

将来的にはシェアハウスの数もシェア農園の面積も広げ、観光客も移住者も増やしたいです。目標はシェアハウス10カ所、移住者100人、会員千人、年間観光客1万人！壮大すぎませんか？(笑) ぼちぼち頑張ります！



毎週末、村外から会員さんが、空き家だった商店を活かした「ひのはうす」に集まり、近くの畑や山、川で農業体験や自然体験をしています。

# 村の魅力

# を体感し発信する人

第5期 高橋 春香 (新潟県出身)

新潟県出身、社会人とともに東京都心部へ上京してきました。現在は檜原村での10時のおやつタイムをこよなく愛しております。

都心で生活していた私が檜原村を知るきっかけは友達の一語「東京に村があるよ」でした。そして初めて檜原村を訪れた日はお雛子の祭りをやっていました。祭り中、よそ者の私に対しても身内のように気さくに話してくれる地元の方の人間性に「なんだかいいなあ」と感じ、それから檜原村へ遊びに行くようになりました。村内各地、どこへ行くとも何度行っても村の方の気さくさと温かさを感じ(村で村の方と一緒に何かやったら楽しいだろう)と思うようになり、そんな時に出会ったのが檜原村地域おこし協力隊の先輩です。村の人と語って、村のお手伝いをして、村のことを考えて、そんな先輩方を見て「なんだかいいなあ」と思い、私も協力隊になりました。

現在は協力隊として空き家、移住、定住担当を行っている傍ら、村のイベントの手伝いや村のおじいちゃんおばあちゃんのお手伝いを行っています。

近所同士が協力的、地域で力を合わせて祭りなどの伝統継承を行う、年齢関係なく若々しく働き者、村での暮らしを通して感じるものが沢山あります。多くの方が地元を大切にし、生き生きと生活している、そんな姿から人生を楽しむコツを学んでいます。今後、多くの方と関わりを持ち、村で新たな発見をする中で私自身が村の為にできることを増やしていきたいです。

観光とは別視点の檜原村に住んだから分かる村の良さや楽しみ方があります。檜原村の魅力発信し、村の人や文化や暮らしに対して「なんだかいいなあ」と感じる若者を増やすこと、檜原村に移住する方や何らかの形で関わりたい方の繋ぎ役になることを積極的に行っていきたいと考えています。



ひのはら生活満喫中！  
左の写真は草刈りと小林家住宅のつつじ。たとえ暑くたって、たとえ霧がかかってたって何でも楽しい！！



## 村の暮らし



## 村の賑わい



## に遊び心をつくる人

第5期 土井 卓哉 (山形県出身)



これまで自分の人生は、周りの人の支えがあつていまの自分があることに気が付き、私も何か人の為に役に立ちたい、行動したい、漠然とした考えではありましたがそう思う様になり、檜原村地域おこし協力隊に応募を決めました。また同時にずっと抱き続けていたキャンプ場経営の夢を同時に叶えるチャンスでもありました。いくつか候補地がありましたが、東京都に村？という事にも興味がありました。例えば3年ほど前に三頭山に登った事があり、あそこが檜原村か！とその時に当時の良い印象を思い出しました。

檜原村に移り住み半年がたち、村外でのPR活動を初め、村の行事や地域のお祭り事にも積極的に参加しています。その他、地域おこし協力隊皆の力を合わせて村民の困りごとのお手伝いなど、微力ながら自分の得意を活かして活動しています。

今後の活動としては「自分の好きな仕事にする」をテーマに3つの好きな

事を形にしていきたいと考えています。まず1つ目はキャンプ場を作る事です。これまで各地様々なキャンプ場に行き、良し悪しを見て感じ取ったことを活かし、檜原村に全国から足を運んでもらえるようなキャンプ場を作りたいと思っています。

2つ目はボルダリングジムを作る事です。ボルダリングは簡単に言えば壁をよじ登るスポーツ。季節や天候に左右されず、頭も身体も使い、老若男女1人でも簡単に楽しめます。何よりも村の子供たちや、家族で安心して楽しめる場所を作りたいです。

3つ目は木工作業場です。私の趣味である木工作業をできる場所をキャンプ場内に作る事です。檜原村の木を使って創作していきたいです。これから、みんなが楽しめる場所作りを、私が楽しみながら始めて参ります。



キャンプイベントを企画し、男のキャンプ料理を実演中！地元の獅子舞にも初挑戦。村の伝統を継承する担い手に。

## づくりをする人

第5期 土井 智子 (山形県出身)



私はこれまで2人の子供を育てながら働いてきました。今は子供達も大きくなり、それぞれが自分の進む道に向かっていくタイミング。私も自分のライフワークとしての働き方にシフトしていきたいと考えている時に、地域おこし協力隊の募集を知りました。

もともと登山やキャンプが好きでしたので、いつか自然があふれるところに根を下ろし、自分達の拠点となるような場所をつくりたいと思っていました。檜原村は三頭山や神社を訪れていて、環境も人も良い印象を思っていたので、私もこれまでの経験を活かして、未来の村づくりのお手伝いができればと思い応募しました。

移住して来てからは村の皆さんに優しく迎え入れて頂き、まるで大きな家族になったような感覚になり嬉しくなりました。元々、人と会話をすることや、自分の知らない分野を知るのが好きなので、移住してきてからは地域の

お祭りやイベントに参加し村での暮らしを満喫しています。檜原村はお祭りや行事を皆が積極的に楽しみ、また日々の生活では地域ぐるみでお互いを支え合い、それを大切に次世代へと繋いでいることに感動しました。また檜原村には村ならではの暮らし方があります。それを教えてくれる人生の先輩がたくさんいることが村の資源であり、何にも代えられない財産だと思っています。

そんな檜原村の魅力を伝える村の情報発信や、村の特産物、イベント企画、人と人のご縁繋ぎ、地域と役場、村の魅力をぎゅっと詰め込んだ場を作りたいと思っています。また、場所をシェアして使えるシェアスペースも作りたいと思っています。村民から村外の人まで、いろんな人がふらっと立ち寄れるような交流の場所、愛される居場所となるスペースづくりを、檜原村で作っていかうと思っています。

地域おこし協力隊新聞「SPOON」を隔月発行に際し、本物の新聞記者に取材を受けました。地元の祭りにも「ささら」で参加。



地域おこし協力隊

# OB/OG INTERVIEW

協力隊を卒業し、檜原村民として地域に暮らすOB/OGへインタビューしました



活動を広めた先輩達！



未来を切り拓いた先輩達！

## 卒業後の生活について

- 檜原村へ定住100%
- 檜原村で就労・起業100%  
(令和2年3月時点)



檜原の木に新

## しい命を吹き込む人

第5期 大倉 悠揮 (岐阜県出身)

「東京に村がある」  
その言葉で、初めて檜原村を訪れたのは5年前のことでした。その後、村に大学の先輩が移住していることを知り、そこから檜原をおもちゃの村にする、トイヴィレッジ構想が立ち上がっていることを教えてもらいました。

学生時代は日本全国を回りながら木育に着目し、木のおもちゃを作っていました。その後、木工を学ぶ為、岐阜の飛騨高山の家具メーカーに就職し、技術向上を図ってきました。それから4年半、仕事する中で、おもちゃを作りたい気持ちが再発し、次のステップを踏もうと模索していた矢先、先輩からトイヴィレッジ構想の話が持ち上がり、協力隊に応募することを即決しました。

協力隊に着任したのは令和元年10月と日が浅い為、右も左も分からない日々が続きました。しかし、地区の人や多くの方に支援をしていただき、今を暮らしています。コンビニや大型

スーパーがない、何もない印象だった檜原も見渡してみると、いろんなものが溢れかえり、そこは何かある場所へと意識変化しました。協力隊では木工を担当しております。村のものづくりの窓口として村内の林業会社「東京チエンソーズ」の手伝いを主な業務とし、村の木材を使ったプロダクトを製作しています。素材となる木も様々な形をしており、材の特色を生かした製品を作ることができ、可能性を広げる、良い環境だと実感しております。

現在は、東京チエンソーズの仕事がメインになっておりますが、村には他にも工房を構えている方が大勢おります。ものづくりが注目されている今だからこそ、素材に近い作業環境を一つの売りに、ものづくりを全面に推していきたいです。そして、その方たちと共に、ものづくりネットワーク(仮)を作り、村をものづくりの村として認知してもらおうことを一つの目標にこれから頑張っていきたいです。



旧北檜原小学校跡地脇に建てられたおもちゃ等工房。木工担当の協力隊として日々、製作活動中。



## 檜原村の

## 資源を守り活かす人

## 第1期 小西 久司 (福岡県出身)



檜原村で地域おこし協力隊の第1期卒業生となった福岡県出身の小西久司さん。都心で地図を作る会社に長年勤務していました。地域おこし協力隊になる以前から、仕事や遊びで檜原村を何度も訪れていた小西さん。もともと

里山を守り、里山に生きるとい生活に憧れがあり、休日には山のボランティアをしていました。いつか、田舎に住み、その中で仕事をして暮らしたいと思っていたところ、馴染みのある檜原村で地域おこし協力隊の募集を知りました。

任期中は村の空き家担当として、村中をくまなく歩き、空き家の調査をしました。また、登録された空き家は移住したい人へ案内してきました。檜原村は平たんな土地が少ないため、住宅は貴重な資源。それをどう活かしているかを協力隊の時から考えていたそうです。

また村の伝統行事を後世に継いでいきたいという思いから各集落のお祭り

に参加し、村の人との交流をしてきました。

檜原村に移住してから5年が経ち、もうすっかり村に溶け込んでいる小西さん。檜原村に来てから産まれたお子さんと奥様と3人で檜原村の暮らしを楽しんでいます。

仕事は林業の傍ら「村守(むらもり)」というプロジェクトを立ち上げて活動しています。村守は「村をワクワクさせ村を楽しむ」という理念のもと村の自然を守りながら、空き家や山などの資源を使い、村に還元させていく事を考えています。その活動の一環として「家守(やもり)」の事業を始め、空き家の見守り、現状を維持するための管理や新しい使い方の提案をしています。新しい取組として、現在、自宅脇の遊休地を使って、親子でのびのび遊べる公園を作っています。これからも檜原村の村民として、地域の活性化を地域の人と一緒に考えていきたいそうです。

空き家を見守る「家守」の活動のひとつ。空き家の維持管理。山や林業を知ってもらうためにイベントにも積極的に参加している。



## できる場所をつくる人

## 第1期 杉本 有香 (東京都出身)



出身は東京都品川区という都会から、第1期の檜原村地域おこし協力隊になった杉本有香さん。神奈川県で美容師として長年働いていました。もともと植物や野菜、ハーブに興味があり、いつか自然が豊かなところで暮らしたいと思っていた矢先、檜原村の地域おこし協力隊の募集を知ったそうです。

初めて村に来た時、東京にもこんなに緑が豊かで人々が助け合って暮らしているところがあることに驚いたと話す杉本さん。実際に住んでみると村の人があたたかく、様々なものを手作りする村の感覚が自分にも合っていると感じました。

地域おこし協力隊の第1期は、すべてがスタート期。村のお祭りや行事に参加し交流をはかり、地域おこし協力隊の存在を村に知ってもらおう活動をしてきました。またもともと美容師だった技術を活かして、デイサービスの利用者ボランティアカットをしていました。ご利用者と接するうちに美容

も福祉に役立つのではないかと卒業後の仕事にしていくことを考えていました。

任期を終え卒業した杉本さんは、協力隊時代の活動経験を活かし、施設に人居している方や外出が困難な方、その他希望する方の自宅に行つて髪を切ったり染めたりする「訪問美容」の仕事をしています。定期的に利用している方は「杉本さんとお話ししながら綺麗にしてもらえる」と楽しみにしているようでした。また平成31年4月に、自宅の一部を改装し、土日限定で「食堂 ゆるり」をオープン。村や近郊でとれた野菜などを中心に、日替わりの定食を提供し、観光客や地域の人に愛される食堂づくりをしています。

「もっと檜原村のことを知ってもらいたい」という思いを、これからも村の一員として地域に暮らしながら、食堂を通じて発信し、また訪問美容師として村の人にも喜んでもらえるような仕事をしていきたいそうです。

木を使った温かみのある食堂はカウンターのみ8席。杉本さんと会話しながらお食事を楽しめます。そしてもう一つベテラン美容師の顔。



## ゆるり





## 檜原村の



## 生業復活に情熱を燃やす人

## 第2期 細貝 和寛 (新潟県出身)

新潟県に広がる日本海側最大の平野、越後平野。山間の檜原村とはまさに真逆ともいえる環境で細貝さんは育ちました。中学2年生のときに参加した「尾瀬子どもサミット」をきっかけに自然に関心を持つようになります。高校では山岳部に入部し北アルプスの山々を登頂。大学では森林系の学部を選択し、「里山」や「林業」というキーワードのもと、森林と人間生活のあり方について学びを深めました。

そんな細貝さんと檜原村との出会いは大学1年生のとき。サークルの合宿と雪かきボランティアで図らずも檜原村を訪れることになったのでした。そこで個性ある村の人々との出会いに魅了された細貝さんは村に定期的に通うようになり、新卒で地域おこし協力隊になるという道を選んだのでした。

細貝さんが協力隊として積極的に取り組んできたのは、「わさび田復活プロジェクト」。これは、山奥に放棄されたわさび田を復活させ、人が集う地に変

えていくという前代未聞の試み。毎週のように参加者を募って自分たちの手でわさびの世話をしたり吊り橋を作ったり、講師を招いて石積みを修復したりと大変熱心に活動しています。また、村民から直接技術や知恵を学ぶ「ひのほら放課後クラブ」も主宰しています。

村民の技術や知識を伝承したいとの思いから、聞き書きなどの活動も行っている。写真左は榎倉の獅子舞、右はわさび田での活動の様子。

協力を卒業した現在は、林業の仕事が大半の時間を占めているものの、「わさび田復活プロジェクト」が主軸であることには変わりはありません。目標は、自分の手で作ったわさびを村内外へ流通させること。そして最終的には「檜原村の一つの産業として成り立たせる」ことが夢だそうです。ただそれさえも通過点で実現させたいことはまだまだあるそう。これからの細貝さんの活躍にますます期待ですね。



## 檜原村で



## 家族の歴史を紡ぐ人

## 第4期 中村 瑞恵 (東京都出身)

中村瑞恵さんは東京都江東区で育った都会っ子です。瑞恵さんにお話を伺うと、協力隊になる前から檜原愛が強い方だと感じました。

檜原村を訪れたきっかけは温泉巡り。泊まった温泉旅館が曾祖母の家のようで親しみを感じたそうです。また、村を散歩しているとおじいちゃんから声をかけられ「この実は食べられる。これはこんな時に使える」など村で生きる知恵を教わったそうです。他にも様々な場所で村の方との出会いがありました。初対面でも「こんにちは」の一言から人との繋がりが増えることが新鮮で面白く、休日の度に村に通ううち、いつの間にか檜原村の虜になっていたそうです。「いつかは檜原村に住む気がする」そんなことを自然に感じていた頃、村の方から協力隊の募集が始まったと教えていただき応募。沢山の応募者の中から見事採用されました。檜原村での生活は発見や学びの連続。庭の山菜だけでご飯が食べられる。

古民家の造りにも意味がある。昔ながらの知恵。野菜を分け合う優しさ。周りの人やご近所さんにとって何の変哲もない会話やふれあいの中から、一人では分からない檜原暮らしの面白さを教えてもらったそうです。

そして瑞恵さんが檜原村に来て一番の変化は何といっても結婚。協力隊として様々な地域の手伝いをし、繋がりが広がったからこそ、ご主人との出会いもありました。

振り返ると昔から「まずは行動」を大切に、協力隊中もまずは行動してきましたことで、村の方から受け入れて頂き、人との繋がりを通してその結果がついてきたそうです。今後は伝統や村の方が当たり前と感じている知恵や知識を受け継ぎ、協力隊の経験と結婚によって地元へ根付いたからこそ今後の協力隊・移住した方などが迷った時の相談に乗れる人になりたいとおっしゃっていました。

林業を営んでいる嫁ぎ先の「中村林業」の前で。そして檜原村で出会ったご主人との結婚式の様子。



## 村の人にインタビューしました！

藤倉地区  
藤倉大杉の会 会長 小泉 民行 さん  
&  
小川隊員

「初めて会ったのは小川さんが協力隊になる以前、現役協力隊だった細貝さんに付いて来て一緒に小林家住宅にあじさいを植えたとき。協力隊になってからは、小林家住宅で紙漉きとか味噌づくりとかいろんなイベントをやって盛り上げてくれているし、まさに小林家住宅がつないでくれたご縁。うちの獅子舞もやってくれたし、すごくありがたい。藤倉に特別な思いがある小川さんが村に来てくれて良かったよ。これからも一つ頼むよ！」(小泉会長)

オレたち、つよし&amp;たみゆきの「兄弟」！！



目指せ！人里の星！



人里地区  
福田工務店 棟梁 福田 先 さん  
&  
土井(卓)隊員

「檜原村の中でも人里は、もみじ祭りや人里の市など行事が沢山あるから準備が大変なんだよ。人も少なくなったしね。土井さんは全ての行事に参加してくれるお陰で準備が楽になって助かるよ。もう頭数に常に入れてるしね。(笑)それと獅子舞なんかは大したものだ！あれほど真剣に練習に取り組む人は最近ではないね。見たことも無いのによくやったよ。何事にも一生懸命だし、このまま住み続けてもらって、数ある地域の行事を引き継いでもらいたいね。」(福田棟梁)

笹野地区  
里芋農家 野村 誠 さん  
&  
土井(智)隊員

「最初にうちに来たのは里芋の事だなぁ。」山形県出身の土井(智)隊員が里芋堀りと芋煮会のイベントを企画し、里芋を生産している野村さんと繋がりました。「元気があってにぎやかな人だと思ったよ。もちろん良い意味だよ。(笑)村が明るくなるから良いよ。私の体力の続く限りは、これからも協力隊の活動に協力するから頑張ってもらいたいよ。」(野村氏)



里芋が繋いだご縁です！

## 協力隊が来てから変わった事やエピソードなど教えてください♪

上元郷地区  
ひなたぼっこ 代表 鈴木 留次郎 さん  
&  
高橋隊員

「協力隊になる前からいろいろ話してたなぁ。」留さんと出会ったのは協力隊になる半年前。そのころから村のことを教えていただいたり、大きな大根をいただいたり沢山お世話になっていました。「高橋さんが檜原村に来てくれて嬉しいよ。一生懸命村民とコミュニケーションをとりながら働く姿を見ると本当にありがたい。高橋さんには檜原村の食文化の復活をやってほしいなぁ。ねんねんぼうもちとか！」(鈴木代表)

若い人と関わると私も若くなるよお～！



休んでいきな、お茶すんべえ！



下川乗地区  
檜原雅子 代表 戸田雅子 さん・清水ヒロ子 さん  
&  
松岡隊員

「檜原村は高齢化が進み、下川乗も住人が減っていますが、松岡さんや、松岡さんが運営する空き家を活用したシェアハウスの住人、ゲストハウスのお客さん、畑を活用したシェア農園の会員さんによって、集落が少しずつ活気づいている気がします。檜原紅茶のお茶摘みや製茶作業、集落の人々の畑仕事を手伝う中で、そうした仕事を覚えているようなので、将来的には松岡さんや、松岡さんの仲間と一緒に檜原村の農業や紅茶作りを担い、檜原村を盛り上げてほしいです。」(戸田代表)

小沢地区  
株式会社東京チェーンソーズ 代表 青木亮輔 さん  
&  
大倉隊員

「檜原村トイビレッジ構想の一環でおもちゃ等工房の木工作業担当として活躍してもらっています。大学から、また前職の飛騨高山での木工経験があるので、これから檜原村の木材産業の発展に貢献してくれるのではと期待しています。一人作業になりがちなこの仕事ですが、大倉さんが入ったことで相談相手が増え、他の人も楽しそうに問答しています。これからも地域に溶け込んで、地域の人に頼られるような存在になってくれると嬉しいです。」(青木代表)






檜原の森を届けます！


# 檜原村 地域おこし協力隊

## 現役・OG・OBに聞いた！

檜原村で好きな食べ物は何？

あさび(細)  
 ジャガイモ(高)   
 まいたけおとうい(高)   
 芋がらの煮物(小川)  
 森の風のピザパン(大)   
 こんにゃく(卓)  
 たのばな家のラーメン(小西)  
 山菜(瑞)  
 獣肉(松)  
 村の人が作ったおやき!!(智)


休日は何をしている？

副業(自分の好きなこと)(細)  
 おデート(瑞)  
 村内巡りイベント(高)   
 バイト・デート他  
 木工作品制作(卓)  
 檜原研究(大)  
 仲間と知仕事(松)  
 村の将来を妄想(小西)  
 猫と一緒にのんびり(大)  
 町に下りてショッピング(小川)

# 一問一答!!!

- ・小西久司→小西
- ・中村瑞恵→瑞
- ・高橋春香→高
- ・土井卓哉→卓
- ・杉本有香→杉
- ・小川豪→小川
- ・大倉悠揮→大
- ・土井智子→智
- ・細貝和寛→細
- ・松岡賢二→松

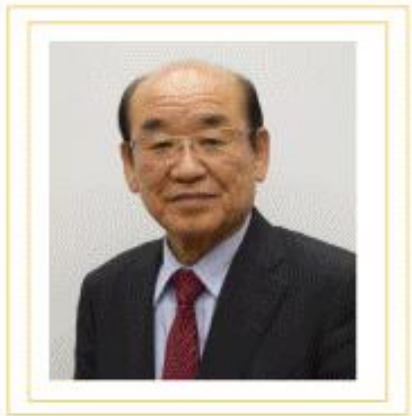
檜原村に来て変わったことは？

家族が増えた(小西)   
 元々になった!(高)  
 価値観(細)  
 電車の利用が減った(卓)  
 車での移動距離がふえた(智)  
 コーナーの運転が上手になった(大)  
 季節を体感するようになった(高)  
 日光が恋しくなった(小川)  
 何もかも(瑞)  
 原付が車になった(松)

檜原村の好きなところはどこ？

祭り(細)  
 自然豊かなところ(松)  
 雨あがりの風景など(瑞)  
 山と空(卓)  
 朝の空気(小西)  
 森林(大)  
 村の人の笑顔(高)  
 家・畑・山・川・人(松)  
 村民同士の間味があるお付き合い(小川)  
 人がハッピーに盛りだてられ(智)

檜原村長より 地域おこし協力隊記念誌に寄せて



檜原村長  
坂本 義次

みどりせせろき風の音  
Tokyo 檜原村

檜原村では人口減少及び高齢化が進む中、村外の人材活用と地域の活性化に必要な施策を推進するため、平成27年9月より地域おこし協力隊制度を設置し、今日まで10名を協力隊員として採用しました。

協力隊員は村民となり、地域や村のイベント、自治会や消防団活動、お祭り行事等、様々な活動に積極的に参加し、伝統や文化や歴史を尊重しつつも、協力隊員として新たな風を吹き込んでいます。また、村内での活動のみならず、様々な角度からの目線で村の魅力や情報発信も行っております。

任期終了後の協力隊員につきましては全員が村に定住し、協力隊員時代に培った経験や人脈、また地域の特性を活かしそれぞれの道を歩んでおります。大変喜ばしくもあり誇りでもあります。

今、協力隊員の若い力は、地域力の維持・強化を図りつつあります。これからも檜原村との縁を大切に、檜原村で楽しく力強く生きていきたいと願っております。今後の更なる活躍を期待しております。

地域おこし協力隊の拠点



協力隊へのご依頼、  
空き家相談、移住相談も  
こちらまで ♪

〒190-0212

東京都西多摩郡檜原村 468 番地イ

檜原村役場 西庁舎

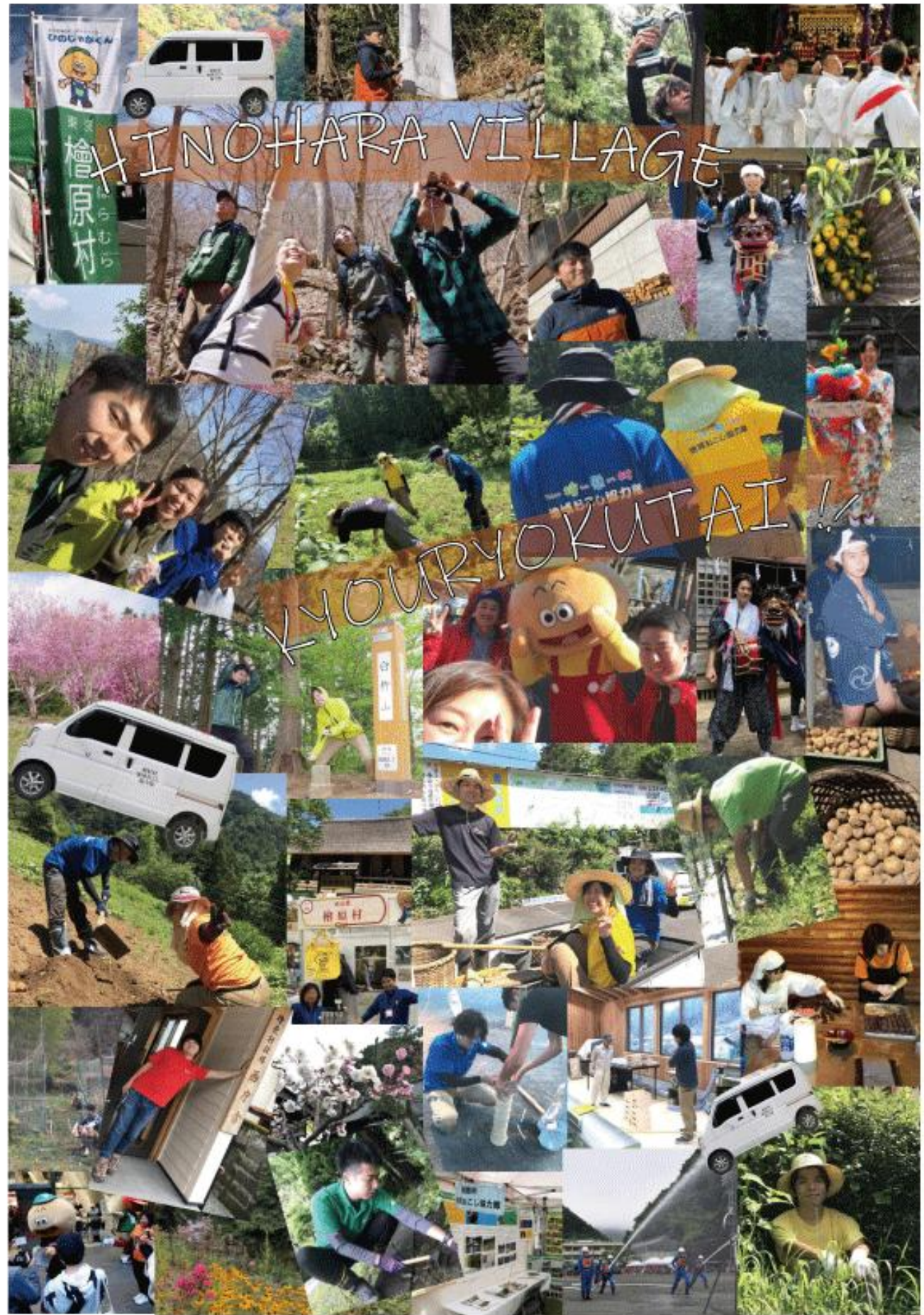
企画財政課 むらづくり推進係

TEL: 042-519-9556

FAX: 042-519-9557



地域おこし協力隊の活動拠点は檜原村役場の隣にある西庁舎です。





発行：令和2年3月  
 檜原村 地域おこし協力隊  
 〒190-0212  
 東京都西多摩郡檜原村 468 番地イ  
 檜原村役場 西庁舎  
 TEL: 042-519-9556 FAX: 042-519-9557